

指導と評価の一体化を目指して ～体育～

学習指導要領の総則では、「授業の改善」（指導）と「評価の改善」（評価）を一体的に充実させることの重要性が示されています。学習評価によって、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」を的確に捉えて、教師は、指導の改善を図ること、児童は、自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが大切です。ここでは、「1. 学習評価の進め方の手順」と「2. 指導と評価の計画の作成のポイント」、「3. 評価後の指導の継続と再評価の重要性」について示します。

1. 学習評価の進め方の手順

(1) 単元の目標を作成

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 児童の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

(2) 単元の評価規準を作成

- (1)、(2)を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（児童の反応やパフォーマンスなど）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えた後、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

(3) 「指導と評価の計画」を作成

授業を行う

- (3)に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる。

(4) 観点ごとに総括する

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行う。

2. 指導と評価の計画の作成のポイント



毎時間の指導においては、単元の目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力の三つの柱に留意しつつも、本時において重点的に指導する内容（以下、「重点内容」と表す）を絞り、指導することが想定される。



重点内容の指導と同時間内に評価を行う場合があるが、技能や主体的に学習に取り組む態度のように、習得や活用の段階等を踏まえ一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられる。したがって、重点内容と本時の評価の観点が必ずしも一致するものではないことに留意する必要がある。



重点内容を絞ることは、授業改善の視点を踏まえたPDCAサイクルの確立の観点においても重要である。児童の実態等を考慮し、重点内容を計画的に設定することは、指導内容の明確化を図るとともに、評価計画の立案にも生かされるものであるため、指導と評価のつながりをより確かなものとするのが考えられる。

3. 評価後の指導の継続と再評価の重要性

ある児童において、単元の前半に評価の機会を設定した項目がBまたはCであったものを、単元の終盤までにAまたはBとなるよう指導の充実を図ることが本来の評価の在り方であることから、単元前半に評価したことをもってその観点の評価を確定することには留意が必要である。指導したことがどの程度身に付いているかを評価することは、単元の途中や終盤等において指導方針の修正を図るうえで極めて重要である。つまり、単元の目標を踏まえて評価規準を作成し、評価の観点を明確にしたうえで指導に当たることにより、指導内容が一層明確になる。

【事例】内容のまとめり：第1学年及び第2学年 B 器械・器具を使つての運動遊び
単元名：マットを使った運動遊び（第2学年）

◆単元の目標（【例】(1)単元の目標を作成）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようにする。	マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。	マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

◆単元の評価規準（【例】(2)単元の評価規準を作成）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マットを使った運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。 ②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 ③手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。	①坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることのできるような場を選んでいる。 ②腕で支えながら移動したり、さかさまになったりする動きを選んでいる。 ③友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。	①運動の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動遊びをしようとしている。 ③場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

◆指導と評価の計画例（【例】(3)「指導と評価の計画」を作成）

時間	1	2	3	4	5	6	
0	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認	場の準備→準備運動（感覚つくりの運動遊び）				マットランドで楽しもう	
		ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり	ぴよんぴよんランド ・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び	さかさまランド ・跳び箱を使って ・肋木を使って	グループでマットランドの場を作って楽しむ。作ったランドをグループ間で紹介し合っ楽しむ。		
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介			他のグループが作ったランドで楽しむ。もっと楽しいランドになるよう工夫する。動きのバリエーションを楽しむ。		
	感覚つくりの運動遊びの紹介	転がり方を組み合わせる。	川跳びからの腕立て横跳び越し	さかさまからのブリッジ			
4 5	振り返り→整理運動→片付け						
知※		② 観察・ICT	③ 観察	① 観察			
思			③ 観察・カード		① 観察	② 観察	
態	④ 観察	③ 観察		② 観察・カード	② 観察・カード		

※ 知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

◆総括的評価の考え方（【例】(4)観点ごとに総括する）

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	総括
知		②→B	③→B	①→B			B
思			③→B		①→A	②→B	B
態	④→B	③→A		①→B	②→A		A

<引用・参考文献>

・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 令和2年3月 文部科学省 国立教育政策研究所
・学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編 平成29年7月 文部科学省